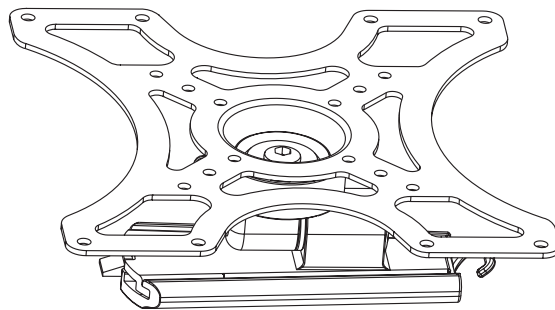


テレビ壁掛け金具 使用及び取付け説明書

型番

『LCD-2600』 『LCD-2601』 『LCD-2602』



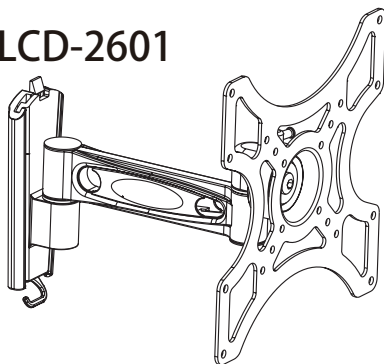
LCD-2600

※金具の取付け説明はAP-2600を例に説明しております。

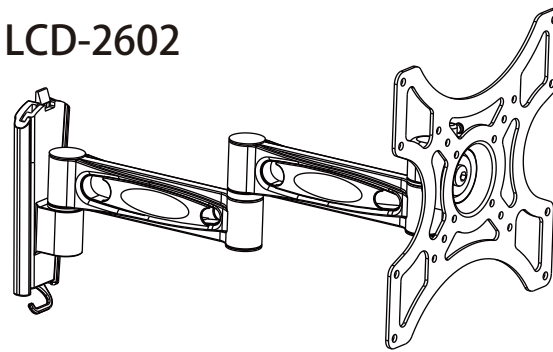
■LCD-2601、LCD-2602も取付け方は同様となっております。

(アームの説明のみ紹介しております)

LCD-2601



LCD-2602



この度は本商品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
設置の前に本説明書をよくお読みのうえ正しく設置・使用してください。

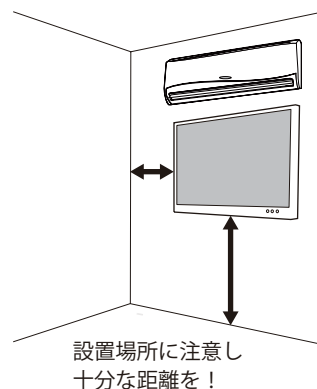


ご注意

- 本商品は、日曜大工（DIY）が得意な方でしたら十分に確認を行ったうえで作業をすれば設置可能です。ただし、説明書を無視した組み立て設置や誤った組み立て設置、取り付け不良、取り付け強度不足、本来の目的以外の利用および、天災などによる事故や破損については、弊社では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
少しでも作業に不安があるようなら、決して無理に取り付けを行わずに設置業者へ依頼をしてください。
- 取り付けを行う前に、テレビが今回お買い上げの金具に取り付けできるかを今一度確認してください。壁側の取り付け工事を行った後に、テレビの取り付けが出来ないと発覚しても弊社では一切の責任を負いかねます。何卒、慎重にご確認ください。
- 金具の種類やテレビの大きさによっては、重量がある場合がございます。
基本的には2人以上で組立・設置作業を行ってください。
- 設置作業を行うにあたって、安全性を十分に考慮し、設置中の怪我や、部屋及び家財にキズを付けることの無いようご注意ください。また、作業時は十分な作業スペースを確保してください。

⚠️ ご注意

- ✓ 誤った組み立て設置や取付け不良、取付け強度不足、本来の目的以外の利用や、天災などによる事故等については一切の責任を負えませんのでご了承ください。
- ✓ 個人で取付けを行う際は取付け場所等十分に注意し、自己責任の上で取付けを行ってください。不安のある場合は無理に取り付けを行わず専門業者へ依頼してください。
- ✓ 必要な部品は本説明書通りの手順で全て確実に取付けてください。不備がある場合、テレビの落下や事故の原因になります。
- ✓ 取り付ける壁面によって壁面の耐荷重が異なります。取り付ける場所を確認し、取付けが困難な場合は中止してください。
- ✓ 次の場所には設置をしないでください。
 - ・石膏ボードのみの場所や砂壁土壁のような強度の足りない場所、天井
 - ・振動や衝撃が頻繁にあるような不安定な場所
 - ・人がぶら下がったり、寄りかかったりするような場所
 - ・ぐらつく、傾くなど不安定な場所
 - ・屋外や海岸、温泉に近い場所、湿度・温度の高い場所
 - ・動力用電源配線、空調機器、防磁型ではないスピーカーに近い場所
 - ・テレビの通気が悪い場所、通風を妨げるような場所
 - ・開閉するドアの近くなど、通常生活の行動に支障をきたす場所
- ✓ 設置後の再移動は行わないでください。一度開けた穴を再び使用する事はしないでください。
- ✓ 本商品ごとに定められた許容重量以下のディスプレイのみご使用ください。



取付け設置時に必要になる道具・工具は揃っていますか？

- ◆ プラスドライバー（長さの異なるもの数種類あると便利です）
- ◆ 間柱センサー（下地調査器）
- ◆ 下穴用ドリル（電動ドライバーとしても使用出来るものならさらに作業がしやすくなります）
- ◆ 滑り止め付きの軍手（手を怪我しないようにする為や、誤って落とさないようにご注意ください）

【その他あると便利な道具・工具】

- ・ 厚手のタオルや柔らかい布（金具取付け時にテレビ画面のキズを防ぎます）
- ・ メジャー（設置場所などを決める際や穴を開ける位置の寸法を決める場合に作業がしやすくなります）
- ・ ペン、鉛筆など印を付けるもの

取付けを始める前にもう一度確認チェック！

- ✓ 金具に不備はないかどうか、破損などの不良部品・不良箇所は無いかどうか
- ✓ 付属部品は揃っているか、取付けに足りない部品は無いか
- ✓ テレビの適合をもう一度確認してください。
テレビ側ブラケットを実際にテレビ背面のネジ穴に合わせてみましょう。
- ✓ 取付けを予定している壁の状態を確認してください。
取付ける場所に間柱や補強が入っているか（石膏ボードのみの場所は不可）
コンクリートの場合は別途取付け業者を依頼してください。

！ 付属ネジに関して

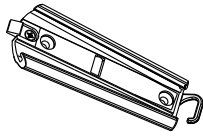
テレビ側のネジ類は、多くのテレビに取り付け可能にする為に数種類の径の太さで一般的な長さのネジを付属しています。万が一付属のネジで長さが合わない場合は別途ホームセンター等で適切な長さのネジ類をご用意ください。

壁側のビスに関して木造の柱や補強のある壁に取り付けを行う事を前提としています。別途コンクリート等にお取り付けを行う場合は設置業者とご相談の上適切なビスやボルトをご用意ください。

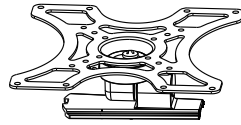
付属の部品一覧

※金具・部品の仕様や形状は実際とは多少異なる場合がございます。

金具本体・壁側プレート部品



a, 壁側プレート …1個



b, モニターブラケット …1個

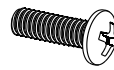
テレビを取り付ける際に使用するネジ類



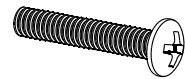
c, M4×12 ボルト …4個



d, M4×30 ボルト …4個



e, M6×12 ボルト …4個



f, M6×35 ボルト …4個



g, M4 ワッシャー …8個



h, M6 ワッシャー …4個



i, M4/M6 スペーサー …4個

※付属しているネジは多くのテレビに合う一般的な長さのネジを付属しています。
万が一付属のネジで合わない場合は別途ホームセンター等で適切なネジ類をご用意ください。

壁に設置する際に使用するネジ類



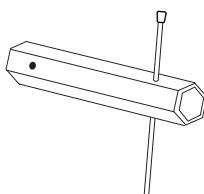
j, ラグボルト …2本



k, コンクリートアンカー …2本

※木造の柱・補強のある壁用のネジが付属しています。
壁の種類や状態によって合わない場合別途ホームセンター等で適切なネジ類をご用意ください。

その他



l, ボックスレンチ …1個

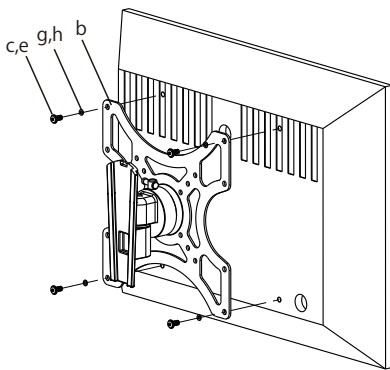
Step1. モニターブラケットをテレビに取り付けます。

下図左側を参考にテレビにモニターブラケットbを取り付けてください。テレビのネジ穴にモニターブラケットbの取付け穴を合わせ、それぞれ適切なボルト・ワッシャーでしっかりと固定して下さい。テレビに段差があり、取付に干渉してしまう場合等は、下図右側を参考にスペーサーを使用して取り付けを行ってください。

●背面がフラットの場合

c, e M4x12 ボルト
M6x12ボルト

g, hワッシャー
(4枚のみ)

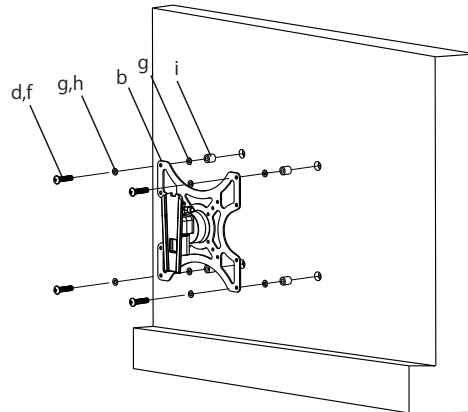


●段差がある場合や配線に干渉する場合 (スペーサーを使用)

d, f, M4x30 ボルト
M6x35ボルト

g, hワッシャー
(g, M4のみ8枚)

i, スペーサー



ご注意

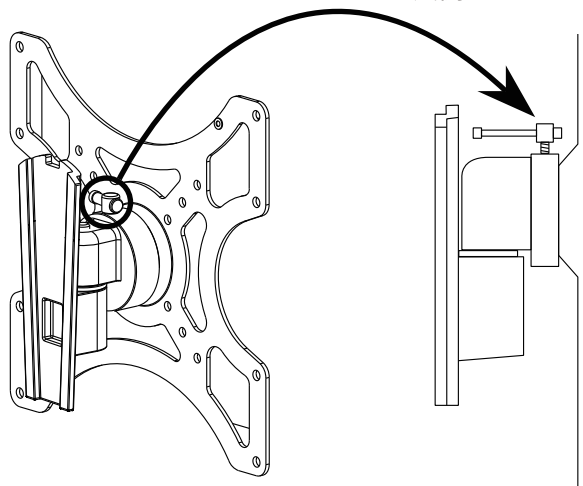
付属しているボルト類は基本的なものになります。取付けのテレビネジ穴の径や深さに合わない場合は別途適切なボルトをご用意の上お取り付けください。

また、スペーサーを使用しても干渉してしまう場合は無理に取り付けを行わないでください。

無理に取り付けを行うとテレビの破損や落下の危険があるので絶対に行わないでください。

※テレビの角度を決める力を調節するには、下の図のように、裏側のハンドルを使用します。時計回りに回すと締まり、反時計回りに回すと緩みます。

裏側のハンドル



Step2. 壁側プレートの取り付け ～事前確認・準備

⚠️ 必ずお読みください！

ご自身での設置作業は自己責任での設置となります。壁面への取り付け不備による事故や損害に関しては一切の保証がございませんので、取り付けを行う際は十分に確認し、安全性を考慮したうえで作業を行ってください。少しでも不安が残る場合は無理に作業を行わず、内装業者・電設業者などに設置依頼の相談をしてください。

※取り付けを行う前にご確認ください。

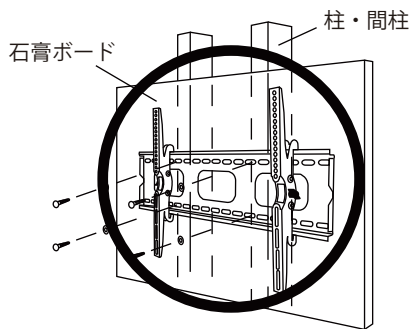
ご自身でお取り付けになる際は必ず自己責任のもと、安全確認等に細心の注意を払い、無理のない作業を行ってください。テレビや金具の重量によってはもちろんの事、基本的には安全を考慮し2人以上で作業を行ってください。

取り付ける壁面によって壁側の耐荷重が異なります。金具を設置する壁面は液晶テレビと金具などの総荷重に長期間十分に耐え、地震や想定される外力に十分耐える場所に取り付けてください。

※図の金具は参考例です。本商品の金具ではありません。

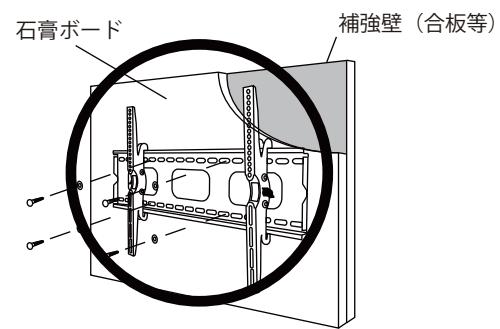
【石膏ボードの裏側に柱や間柱がある場合】

間柱センサーなどで石膏ボードの裏にある柱・間柱を探し、柱の中央にネジを止めるように取り付けを行ってください。汎用金具の場合は壁側プレートが大きい為、柱・間柱2本に取付けを行ってください。



【石膏ボードの裏側（表側）に補強が入っている場合】

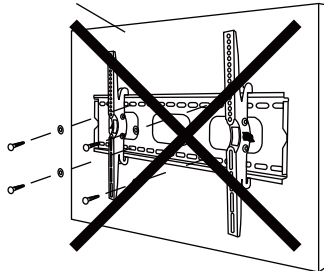
新築時やテレビの壁掛け用に別途合板等で補強を入れている場合、その部分に取り付けが可能です。補強用の合板等は **12mm 以上の厚み** の場合に限りです。



【石膏ボードのみの場所へ取付けを行う場合】

石膏ボードのみの場所への取り付けは出来ません。石膏ボード自体の強度が弱く、取付けを行った場合に壁ごと破損、落下する恐れがあります。

石膏ボード（裏に柱・間柱が無い箇所）



【壁がコンクリートやレンガの場合・

鉄筋の柱へ取付けを行う場合】

コンクリートへの設置や鉄筋への取り付けは、DIYが得意な方でも大変困難な作業となります。コンクリートやレンガの壁への取り付け工事・鉄筋への取り付け工事はお近くの**専門業者へご依頼ください**。
※本商品付属のコンクリートアンカーは一般的なものを採用しておりますので、設置が困難な場合は専門業者にご相談の上、適切なボルトでお取付けをお願いいたします。

【テレビボードへ取り付けを行う場合】

家具屋などで販売しているテレビボードへの取り付けは弊社ではテレビボードの情報を持ち合わせていない為、テレビボードの販売店に板厚やテレビの壁掛けに対応しているか等の情報を得て、自己責任でのお取り付けとなります。その場合、別途適切な壁側のビス等をご用意ください。

【砂壁・土壁の場合】

砂壁や土壁の場合は、石膏ボード同様強度が弱くお取り付けができません。内装業者・電設業者などに依頼し、別途壁に補強工事を行う必要がございます。そのまま取り付けを行った場合は壁ごと破損、落下する恐れがある為絶対にお止めください。

Step2. 壁側プレートの取り付け ～事前確認・準備の続き

【間柱に取り付ける際の、間柱の見つけ方】

一般的な方法として、間柱センサーや探知針を使って間柱を見つける方法があります。

間柱センサーは電気信号で見つけるタイプ、探知針は細い針を刺すタイプがあります。

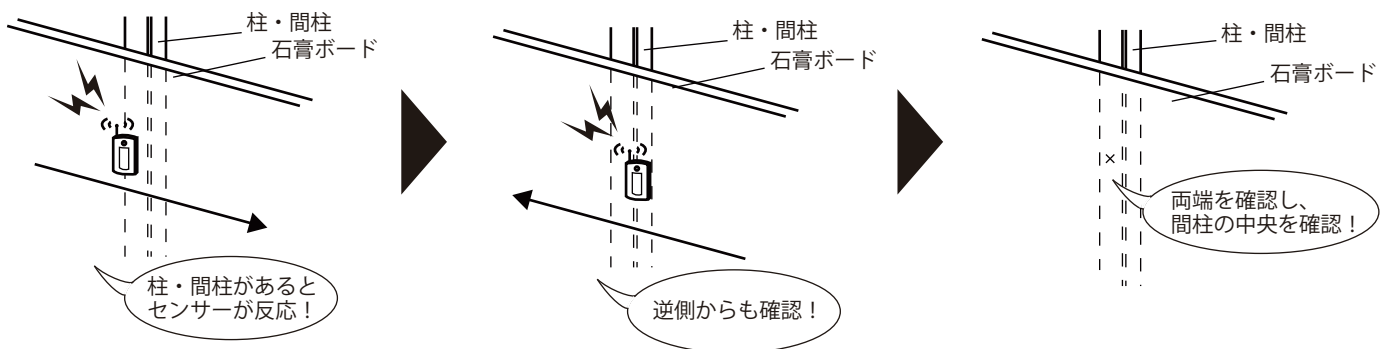
設置する場所に目星をつけ間柱センサーや探知針で調べていきます。

間柱を見つけたら目印をつけ、間柱の中央付近を確認しましょう。最初に見つけた場所が間柱の端だった場合、ネジが効かなかったり間柱が割れてしまう可能性がありますので、間柱の中央付近をしっかりと確認して確実にネジを打てる場所を見つけてください。

【間柱センサーを使用する場合】

片側から壁をなぞるように数回調べます。センサーの鳴り始めが間柱の端になりますのでその部分に印を付けます。

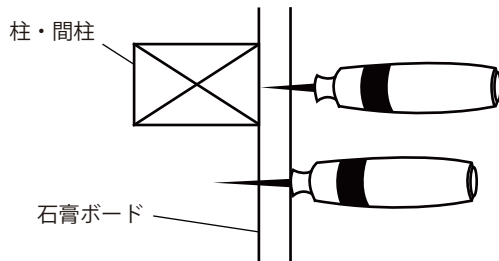
逆側からも同じ様に間柱の逆端を調べ、2点の間が間柱の中央になりますので、中央に目印を付けてください。



【間柱探知針を使用する場合】

取付けを行う位置に柱があるかどうかを確認するために、平行に数か所に針を刺します。

間柱検知針を使用する場合（上から見た図）



刺すタイプは、間柱がないと手ごたえがなく針が奥まで入ります。針が止まると柱や間柱がある場所です。

（仕様はメーカーによって異なります）

刺す場所は1箇所ですらならず、数か所刺して間柱の中央を探し印を付けてください。

※間柱センサーや検知針をお持ちでない場合

間柱センサーや間柱探知機はホームセンターやインターネットで多数の種類が販売されています。

また、弊社ホームページでも販売しています。

※時期や在庫状況などによって、弊社で販売している種類が異なったり、販売を一時中止している場合がございます。

※正確な使用方法に関してはメーカーの取り扱い説明書をご覧ください。

上記で説明している方法は簡易的な説明となっております。詳しい説明方法はメーカー取り扱い説明書をご確認ください。

※上記の方法でも柱・間柱が確認できない場合

間柱センサーや探知針を使用しても柱・間柱の立っている箇所が見つからない場合、GL工法など別の構造の場合があります。

確認しても見つからない場合は、決して作業を続行せずに内装業者・電設業者などにご相談・ご依頼ください。

【補強壁へ取り付けを行う場合】

壁一面が補強してある壁の場合は柱・間柱を見つける必要はありません。

補強の入っている壁の箇所にお取り付けを行ってください。

ご自身で別途補強を行う場合は、補強する板は必ず柱・間柱など土台となる箇所にしかりとお取り付けください。

補強に不備があり板ごと落下、破損した場合でも一切の保証がございませんので十分に注意し、安全性を考慮したうえで設置作業を行ってください。

Step2. 壁側プレートの取り付け

⚠ Step1 の作業を先に行ってください！

Step1のモニターブラケットの取り付け作業を先に行ってください。万が一モニターブラケットが取付けできなかった場合、取り付け可能なテレビに交換するなどをしてしないと取り付け設置が出来なくなります。また、先に壁側プレートを取り付けてしまった場合にテレビ側が合わなかったと発覚した場合でも一切の返品保証および壁側の工事保証等はお受けできません。

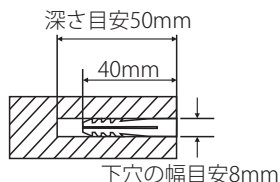
図と部品番号を参考に取り付け作業を行ってください。

※壁面の種類に応じて適切なボルトを使用してください。付属のボルトでは取り付けが困難な場合、別途適切なボルト類をご用意下さい。※水平器を参考に水平に取り付けてください。

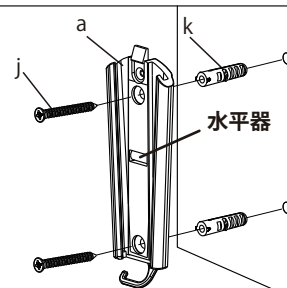
レンガ、コンクリ壁への設置

壁の取り付けたい位置に壁側プレートを合わせ、ペン等で開いている穴2点に印を付けます。右図を参考に下穴を開けます。下穴を開けたらボルトを使用し、しっかりと壁面プレートを固定してください。

※付属のネジの下穴目安



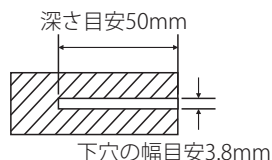
※イラストはイメージです



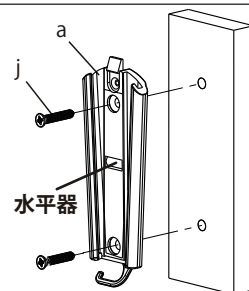
木製壁への設置

壁の取り付けたい位置に壁側プレートを合わせ、ペン等で開いている穴2点に印を付けます。右図を参考に下穴を開けます。下穴を開けたらボルトを使用し、しっかりと壁面プレートを固定してください。

※付属のネジの下穴目安



※イラストはイメージです



※下穴の幅及び深さの目安は付属のタッピングビスを使用した場合の数値です。

別途ビス類をご用意された場合は用意したビス類に応じて適切な大きさの下穴を開けてください。

取り付ける壁の強度や取り付け位置、方法については、専門の工事業者にお問い合わせください。一般的に石膏ボードの壁には補強が必要です。キリや専門の探知機で壁の裏にある柱・梁等の補強箇所を探し、安全に取り付けてください。

Step3. 壁側プレートにモニターブラケットを引っ掛けて固定する

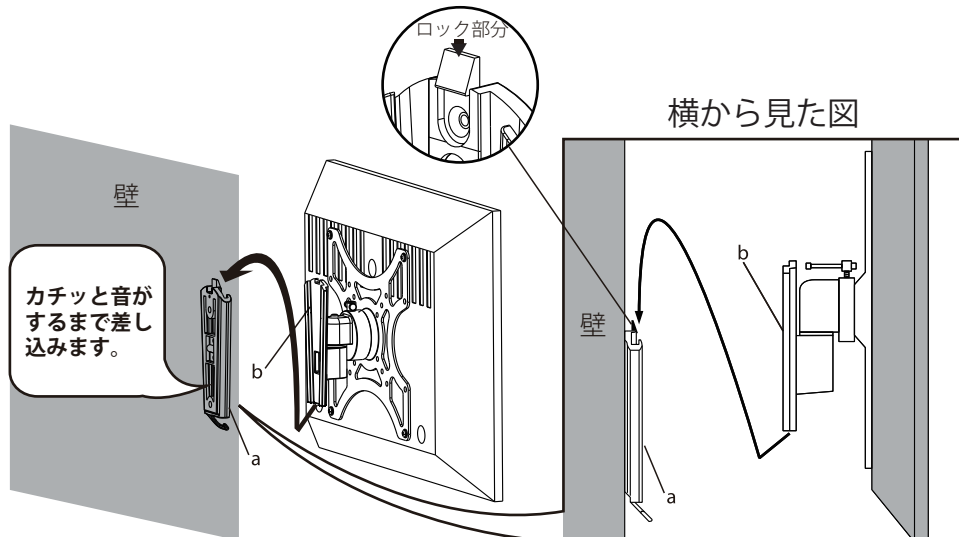


- ・この項目での作業は、テレビの大きさや重量によっては大変困難な作業となる場合がございますので、無理に1人で作業を行わずに2人以上での取り付け作業を行ってください。
- ・無理な作業による作業者の負傷や、テレビや金具などの破損・損傷などについては弊社では一切の責任を負えませんので、安全に作業を行うようにしてください。

■壁側プレートにモニターブラケットを上からスライドして取り付け固定し完成

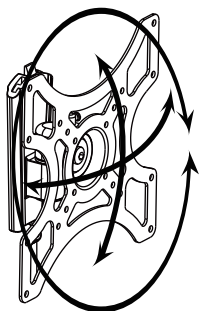
下図のように壁側プレートa、モニターブラケットbどちらもしっかり固定されていることを確認し、壁側プレートaの溝の部分にモニターブラケットbをスライドして壁側プレートaのロック部分がカチッと音がするまで差し込み設置します。

※モニターブラケットを外す際にはロック部分を抑えてロックを解除してください。



Step4. 角度調節を行う

●上下左右調節・回転



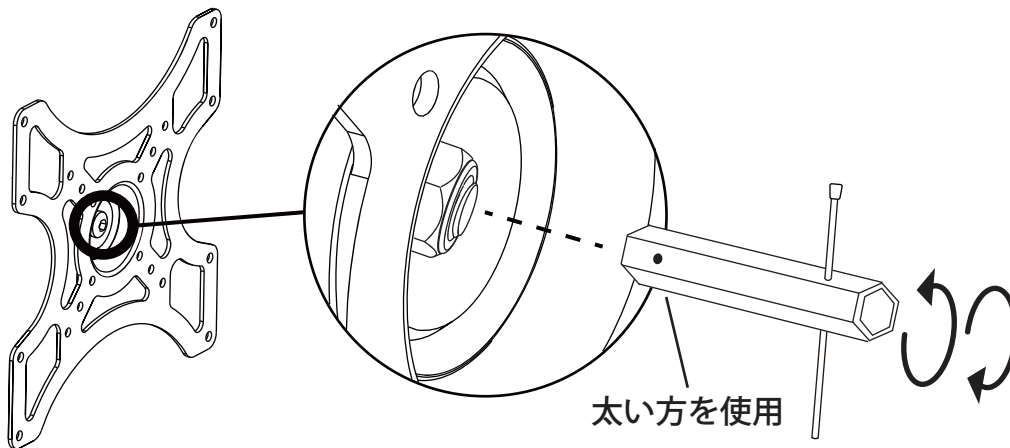
- ・ 360度回転させることができます。
- ・ 上下左右に調節させることができます。

動きが固い/緩い場合は、モニターブラケット中央を調節してください

※調節の際はテレビを外す必要があります。

1. ▼ボックスレンチ(1)の口径13mm(太い方)の穴を使用します。
2. 穴を金具側ナットにはめ、ボックスレンチ側面の小さい穴にバーを差し込んで回して調節してください。

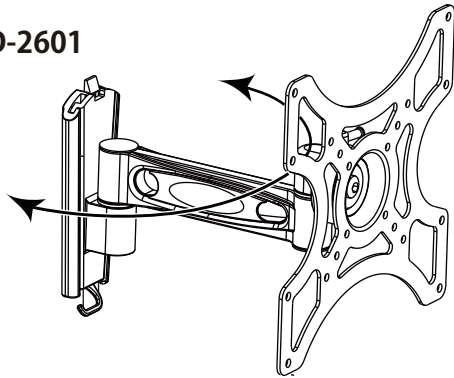
モニターブラケット中央 (LCD-2600/2601/2602 共通)



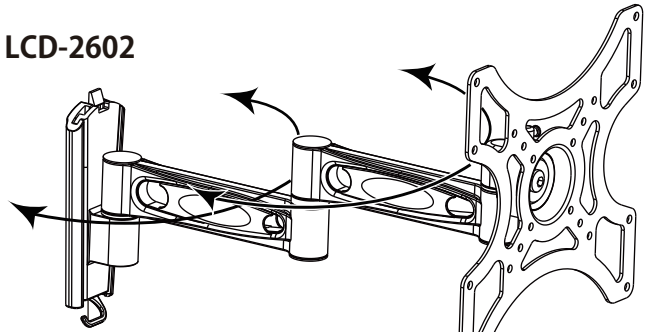
●アームの調節(LCD-2601、LCD-2602のみ)

※矢印の方向に角度を変えられます。

LCD-2601



LCD-2602



動きが固い / 緩い場合は、アーム関節部を調節してください

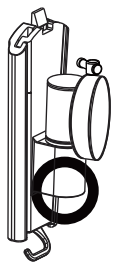
※調節の際はテレビを外す必要があります。

1. ▼ボックスレンチ(1)の口径13mm(太い方)の穴を使用します。
2. 穴を金具側ナットにはめ、ボックスレンチ側面の小さい穴にバーを差し込んで回して調節してください。

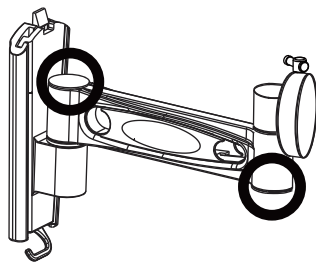
アーム関節部

(各関節部にはプラスチック製の黒いフタが付いています。フタを外すとナットが確認できます。)

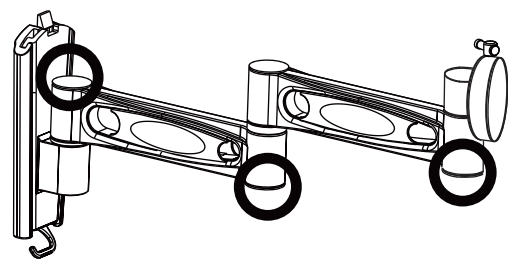
LCD-2600



LCD-2601

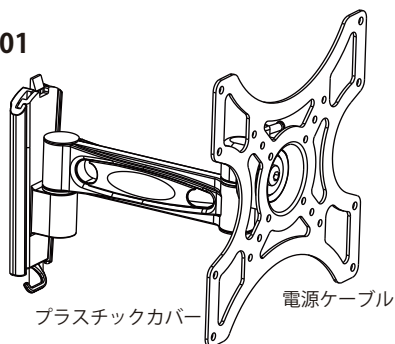


LCD-2602

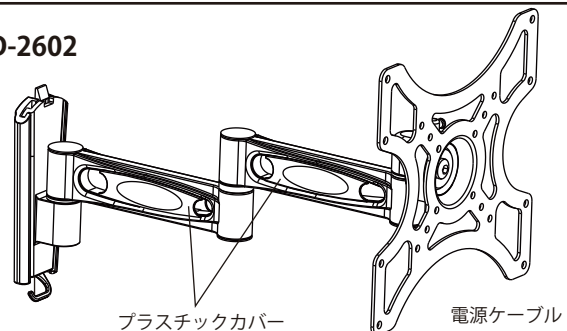


●電源ケーブルの整備(LCD-2601、LCD-2602のみ)

LCD-2601



LCD-2602



テレビの電源ケーブルをアームの内側に整備することが出来ます。上の図のようにアームにはまっているプラスチックカバーを外してから、コードを通し、再びカバーをはめて下さい。

※カバーを取り外す際はゆっくり丁寧に取り外して下さい。カバーが割れる原因になります。またカバーを元にはめる場合はカバーの向きに注意して下さい。

Step5. 最終確認

各取り付け部分およびボルトやネジ・ナットの緩み、ガタがないかを確認してください。緩みが確認できた際は増し締めをしっかりと行ってください。少しでもガタや、違和感があった際には取り付けを中止してください。

この確認作業は定期的に(3ヶ月～半年に1回程度)実施し、問題なく使用できていることを確認してください。

経年使用による落下が無いように注意をして使用してください。